

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0972300560		
法人名	医療法人 木水会		
事業所名	グループホーム八州苑 B館		
所在地	栃木県栃木市藤岡町太田1395		
自己評価作成日	令和 2 年 9 月 9 日	評価結果市町村受理日	令和 2 年 11 月 24 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	令和 2 年 10 月 7 日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・家庭的な雰囲気を大切に、入居者1人1人の生活のリズムを維持しつつ役割を持ちながら穏やかに生活して頂けるよう心掛けながら支援している。  
 ・主治医との医療連携体制が構築されており、医療面でも手厚いサポートを得ながら健康維持が図れるよう努めている。  
 ・緑に囲まれた環境に位置し、季節を感じながらゆったりと生活して頂ける。また、ホーム内の装飾からも季節を感じられるような掲示物等で装飾することに努めている。  
 ・ホーム内だけではなく、行事への参加や外食会等ホーム外でも活動出来るよう機会を設けている(コロナウイルスの影響があり、現在は控えている)。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、栃木市郊外の緑に囲まれた中にあり、利用者各々が家庭的な雰囲気の中で、これまでの生活を大切にして、ゆったりと楽しく生活が送れるように支援している。協力医や隣接の老人保健施設の看護師等との連携のもと利用者が終末期、重度化を迎えた場合も含め、安心して医療を受けられる体制がとられている。運営推進会議は民生委員、消防署、駐在所がメンバーに入っており、利用者の安全対策や地域との関係づくり等にもつながっている。管理者と職員のコミュニケーションがよくとれており、事業所が一体となり利用者の支援にあたっている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	5つの基本理念と3つの行動指針を定め、ホーム内に掲示し、日々意識しながら業務にあたり実践につなげている。	5項目の理念と行動指針(ゆっくり たのしく いっしょに)を定め、所内の目につく所に掲示している。定例会議等で確認し管理者と職員の共有を図っている。管理者と職員は理念を常に頭において業務の実践にあたるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスの影響により、現在は交流を制限しているが、広報誌の配布や運営推進会議への協力を得る等良好な関係が維持されるよう努めている。	地域の人のボランティアで、マジックやフラダンス等の訪問がある。地域の祭りでお神輿やお囃子が来てくれ休憩所としても提供している。また、幼稚園児の太鼓演奏や小学生の訪問等子供たちとの楽しい交流も行っており、地域とのつながりが感じられるよう努めている。	新型コロナウイルスの感染が収まらない状況下であるが、事業所と地域の関りが停滞しないよう、運営推進会議も活用しながら職員で話し合い、地域との関係を強化していく取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェ1回/月の開催(現在は休止)やホームページを用いて情報の発信に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1回/2か月、書面で開催し運営状況等の報告を行っている。	運営推進会議は2か月に1回開催しているが、現在は新型コロナウイルスの影響で書面会議にしている。会議メンバーは利用者、家族、民生委員、消防署長、駐在所員等で、出された意見提案等は運営に反映している。警察の夜間パトロールのコースに入れて巡回してもらえようになった例もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通じて、または電話等で適宜連絡を取り、協力関係の構築と維持に努めている	市担当職員が運営推進会議に毎回出席しており情報交換、意見交換を行っている。日常でも電話等で適宜連絡が取りあえる関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	交通事情等を鑑み、玄関は家族の理解を得て施錠しているが必要に応じて開錠している。また、身体拘束は行わないものと認識している為行っておらず今後も行う事はない。	法人全体で身体拘束をしない方針のもと、職員で構成する検討委員会を年4回、勉強会を年2回行い職員の知識や意識の強化に取り組んでいる。施錠は安全のためしているが外に出たような利用者には職員が一緒に出るようにしている。利用者への言葉かけでも気づいたら職員同士その時々で注意し合うようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月、虐待のチェックシートを作成し確認を行っている。職員一人ひとりが不適切なケアが発生しないよう、常に意識しながら防止に努めている。		

グループホーム八州苑B館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を用いて知識として習得し、必要とする時には活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者・役席者が分かり易く説明し、理解納得いただいたうえで契約・解約をしていただき理解・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や家族への積極的な働きかけ、外部の窓口の案内をしている。いただいた意見は職員間で共有し運営に反映させている。	運営推進会議や毎月の支払い及び面会等の来所時には話しやすい雰囲気づくりに努めている。電話も家族の意見を聞く機会となっている。そこでの意見は伝達帳により共有しケアに反映させている。また、家族には利用者の様子を書いた手紙や写真、広報紙などを送り情報を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会の実施や伝達により意見交換をしたり、日々の会話等で意見を聞く機会が設けられている。	管理者は日頃から職員とのコミュニケーションを大切にし、相談や意見に耳を傾けるように努めている。定例会の場や伝達帳も職員の意見・提案を聞く機会になっており、職員の意見等にはメモ等で返すなど、業務等の改善に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	アンケートや面談の実施、毎月の代表者会議の開催を通じて、職員の意見をすいあげ就業環境の整備と改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	フォローアップ研修の案内や開催により職員の知識が高まるよう情報を掲示・共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の案内や参加の支援、他部署との勉強会や行事への参加によりサービスの質を向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査の段階で、本人・家族との話し合いを持ち要望をお聞きし対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人・家族から不安や要望があれば、出来る限り意向に添えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の意見を傾聴し、その都度意向を確認しながら求めている物は何か明確にし対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人との会話から精神、身体機能に合わせた役割を担って職員と共に行うようにしながら生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の手紙での近況報告や、来苑時に積極的に会話の機会を設ける等して、関係の構築や維持に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙のやり取り等、希望があればその都度対応するように努めている。	生活歴や本人の話しなどから正月に自宅に戻っておせち料理を作ってきたり、盆飾りの野菜の牛馬を作ってもらったり、迎え盆や送り盆には線香を灯し皆で手を合わせたり、絵が好きな人には資料や画材をそろえたり、裁縫のできる人には繕い物を頼んでみたり等これまでの関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中で一人ひとりの状態や性格、好みを把握し入居者同士の関わり方等に配慮しながら良好な関係が構築できるように努めている。		

グループホーム八州苑B館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	求めがあれば、必要に応じ相談等を随時受付対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族からそれまでの生活の様子をお聞きし、意向の把握に努めている。	本人と会話する中で、話しを発展させるなど工夫しながら意向の把握に努めている。入浴介助時や職員が夜勤で1対1になった時など本音がゆっくり聞けている。会話の出にくい人には声掛けを工夫して反応を見ながら接し、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前任のケアマネジャーや本人、家族からの情報収集を行い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の様子を細かく観察し、記録により職員間で情報を共有しながら把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向をお聞きし、介護・医療の側面からアプローチ出来るよう作成している。	介護計画は、本人、家族の意向、利用者に関わる職員や医師や同一法人の機能訓練士などの意見を参考にしながら作成している。モニタリングは3か月ごとに行い、見直しは年に1度行っている。本人の状態が変化したときは随時変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その時々を記録に残し、全職員が目を通し情報を共有できるようにしながら実践や見直しに活かす努力をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主治医、他の部署との連携を図りながら状況に応じて対応できるように努めている。		

グループホーム八州苑B館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	実習生やボランティアの受け入れ等を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1回/2週間の主治医による訪問診療や訪問歯科の利用等必要に応じて医療を受けられるよう支援している。	本人と家族の希望を確認したうえで、全員が事業所の協力医を主治医としている。他科への受診は基本的には家族の送迎で、情報の共有は医師の紹介状で行っている。2週間に1度主治医の訪問診療があり、24時間対応してもらえる環境が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム専属の看護師や母体の医院との協力により入居者の状態に応じて適切な医療が受けられる体制が整えられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族の協力を得て医療機関との連絡を密に取っていただいたり、担当職員が医療機関との情報交換等を行い退院に向けた支援がスムーズに行えるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から、主治医と家族とで話し合いを持ち、本人や家族の意向を重視しながらも施設での対応を説明し理解を得ながら支援に取り組んでいる。	重度化した場合の対応及び看取りに関する指針があり、時期が近づいた段階で家族と話し合い、方針の共有を行っている。同意をとって主治医や隣接の老人保健施設看護師などの協力を得ながら看取りに進んだ例もある。職員教育についてはフォローアップ研修や職員同士のサポートで対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	早急な対応が取れるよう、主治医・看護師・介護職員間での連絡体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や地元の消防署との通報訓練等を実施している。また、運営推進会議への協力も得ている。	地震や火災の避難訓練を夜間想定を含め年2回消防署の協力を得て実施している。運営推進会議に併せての避難訓練も年1回行い、会議メンバーには誘導した利用者の見守り役をお願いしている。そのほか年4回の自主訓練も行っており、備蓄もしている。	

グループホーム八州苑B館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者個々の状態を把握し、それぞれに合った言葉かけや対応をしている。	個人記録は普段は事務室の人目につかない場所に保管している。トイレや入浴介助時など声の大きさに注意し、扉は必ず閉めている。汚物の移動時も人の目につかないように配慮するなど利用者の人格尊重、プライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お伺いを立てるような声掛けや分かり易い言葉で話しかけ、出来る限り自己決定をしていただくように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活を送れるよう、ある程度の生活時間は決めているが、本人のペースに合わせてサービスを提供できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好む服等を家族に持参していただき、着て頂いている。また、1回/2か月の理髪を行っている。着衣に乱れや汚れがある場合には速やかに整えるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の食の好みや咀嚼・嚥下状態に合わせた食事の提供をしている。	業者の食材をとっているが職員が調理して個人の好みや状態に配慮した食事を提供している。食器やテーブル拭きなどできることを一緒にやってもらっている。月1回外食や出前を取り入れたり、季節の料理、おやつ、飲み物なども工夫し、食事が楽しめるよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医の意見もとりいれながら食事の摂取量を記録し、体調に合わせて水分量や塩分量を調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前の口腔体操や毎食後の口腔ケアの支援を行っている。義歯使用者は、每晚預かり1日おきに消毒を行っている。		

グループホーム八州苑B館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日記録をし、個人のパターンに合わせてトイレの声掛けや誘導を励行して、全入居者がトイレでの排泄を行っている。	利用者の排泄記録を付けてパターン表を作り、プライバシーを傷つけないよう気をつけながら声掛け誘導するなど、失敗しないでトイレでの排泄が行えるよう自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操の実施や、こまめな水分補給を促し、乳製品の提供を行っている。また、主治医に相談し内服薬でのコントロール等も試みている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は午前中に行っているが、入浴希望の確認を行ったり入浴時間の長さ等個人の意向に添えるように配慮している。	各利用者は週3回入浴している。湯垢をまめに取り除き入浴剤や季節湯も取り入れて気分よく入れるように努めている。現在入浴拒否の人はいない。20～25分のゆったりした時間は利用者と職員が1対1となる貴重なひと時となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内の明かりや温度に配慮し、快適に休んでいただけるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報はファイルし、いつでも確認できるように保管している。また主治医との連携により本人の状態に合わせ変更等を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯物畳み、縫物等出来る方には積極的にお願いしている。また、毎日のレクリエーションの時間に楽しんでいただけるよう予定を立てて実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日はホーム外に出る機会を多く設けている。家族にも外出の協力をいただいている。(現在は制限中)	天気の良い日は外に出て敷地内の散歩をしている。また、近くの道の駅に夕食を兼ねてドライブに出かけ、季節の花やイルミネーションを見て楽しむなど、支援に努めている。今は新型コロナウイルスの影響で自粛中であるが家族の協力を得て希望の場所への外出支援もしている。	

グループホーム八州苑B館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の同意を得て小遣いを金庫内で管理し、毎月の収支は家族に報告している。本人がお金を所持することはないが、希望があれば好むものを購入できる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方には居室内や静かな場所で電話で話をさせていただいたり、家族とのやり取りが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明の赤るさや温度管理を行い、快適で過ごしやすい環境を提供できるように配慮している。また、ホーム内においても季節を感じられるような装飾を心掛けている。	共用空間は適切な温度、明るさ、清潔な空気の維持に努めている。リビングや廊下の壁に利用者と職員で作ったカレンダーや季節の飾り物などを配置し、利用者がくつろげるような配慮をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人と周囲の状況に配慮しながら、ソファの位置を提供したり、くつろげる空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	食器や居室で使用する家具類、寝具類は本人のものを自宅から持ち込んでいただき、心地よく過ごせる環境作りに努めている。	ベッド、クローゼット、洗面台、エアコン、カーテンは備え付けになっている。ほかに本人の使い慣れた物、希望するものを持ち込んでもらっている。家族の写真や配偶者の遺影、市から送られた百歳の祝詞を飾っている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	可能な限り低い所に物を置かず安全な環境を提供出来るように努めている。また、夜間転倒リスクの高い方にはセンサーマットを使用する等、安全の確保に努めている。		